

# 山形福島新潟広域観光活性化計画の概要

## 計画の概要

平成23年3月の東日本大震災や原発事故、同年7月の新潟福島豪雨により山形、福島、新潟における観光業は、著しく落ち込んだ。そのため、全国に誇れる食、自然、文化、歴史、イベントについて、地域の特徴を生かした観光資源の掘り起こしと情報発信を図るとともに、高速道路、新幹線及び在来線を生かした山形、福島、新潟三県の連携による広域観光の活性化を図っている。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内外から観光客の増加が期待されることから、山形福島新潟広域観光活性化計画を策定し、本計画の基幹事業等を活用したアクセス性の向上等に取り組み、観光業全体のボトムアップと広域観光の活性化を図る。



## 計画期間:平成29~33年度

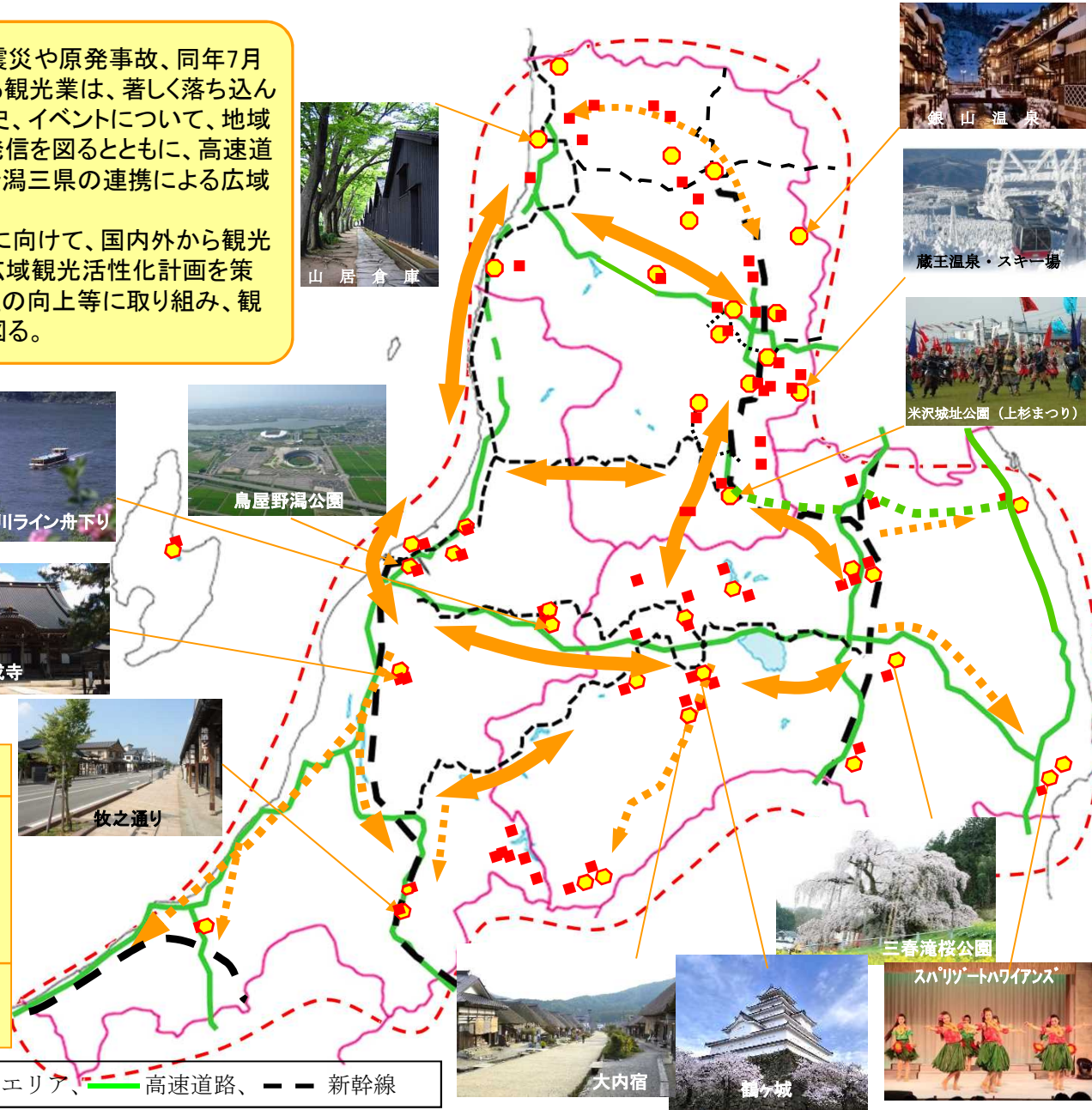
### 1. 目標を定量化する主な指標

- ・山形・福島・新潟三県の観光客数の増加  
16,505万人[H26] → 18,838万人[H33]
- ・山形・福島・新潟三県の宿泊者数をH22水準に回復  
1,372万人[H26] → 1,532万人[H33]

### 2. 主な事業

道路、河川、港湾 等

● 観光拠点、■ 主な基幹事業、○ 観光促進エリア、— 高速道路、- - 新幹線



# 千葉茨城交流圏域における観光振興による広域的地域活性化

## 計画の概要

千葉県及び茨城県では、成田国際空港や茨城空港を活用したインバウンド観光の推進、及び首都圏や国内線の就航先を中心とした国内誘客の促進に取り組んでいるところであり、その効果を千葉茨城交流圏域に広げるため、高規格幹線道路を活かした観光ネットワークを形成することにより、広域的な観光活性化を図る。また、南房総半島地域における観光振興により半島の自立的発展・活性化を図る。



### 計画期間

・平成29年度～平成33年度

### 目標を定量化する主な指標

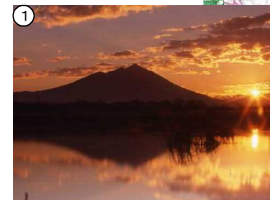
- ・成田国際空港及び茨城空港の旅客者数  
H27: 910百万人→H33: 1110百万人  
(200百万人増、22%増)
- ・南房総半島地域の観光入込客数の増加  
H27: 1743千人→H33: 1877千人  
(134千人増、8%増)

### 主な事業

- ・観光地アクセス向上のための道路整備
- ・広域周遊観光パンフレット作成

凡例

- : 拠点施設
- : 基幹事業
- : 南房総半島地区
- : 重点地区



筑波山観光施設群



シャッターカメラ



大山千枚田



鹿島神宮



犬吠埼



道の駅 季楽里あさひ

# 愛知静岡昇龍道Ukiyo-e Routeを巡る歴史・文化観光活性化計画

## 計画の概要

本地域は、東西に新東名高速道路、東名高速道路、国道1号などが繋がり、東海道を軸とする古くから人・物・情報が行き交う連携の強い地域である。昇龍道プロジェクトを推進する中部広域観光推進協議会では、歌川広重が浮世絵に描いた宿場町や近世の日本に泰平をもたらした徳川家康に代表される武将ゆかりの地などを巡るUkiyo-e Routeの交流人口拡大のため、圏域の観光プロモーションに取り組んでいる。昇龍道を創造する両県の観光拠点では、歴史・文化施設の保全や受入れ環境向上、伝統的行事の保存、新たな広報戦略など、誘客に向けた様々な取組を行っている。

本計画は、テーマ性・ストーリー性を持つ昇龍道Ukiyo-e Routeを軸に、観光拠点間や高規格幹線道路とを結ぶ交通の利便性を高める道路整備など、観光拠点の広域的特定活動を支え、更なる観光活性化を図る。また、しずおか中部連携中枢都市圏における観光連携を高め地域の発展・活性化を図る。



1. 犬山城(犬山祭)      2. 岡崎城      3. 田原市博物館      4. 掛川城      5. 焼津神社

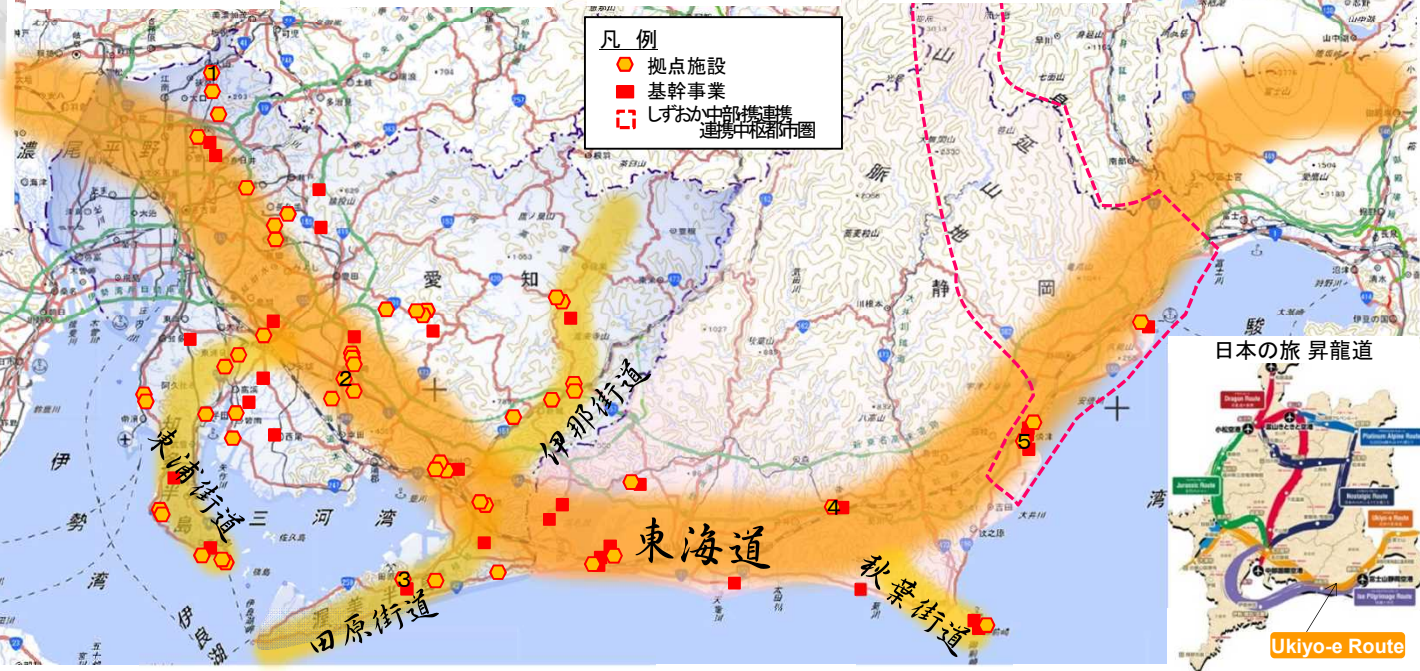
**計画期間** 平成29年度～平成33年度

**目標を定量化する主な指標**

- 交流圏域の観光入込客数の増加  
H27 : 21,831万人→H33 : 22,433万人  
(602万人増、2%増)
- しずおか中部連携中枢都市圏  
清水都心ウォーターフロント地区日の出  
エリアの来場者数の増加  
H26 : 203千人→H33 : 219千人  
(16千人の増加、7%増)

**主な事業**

- 観光拠点へのアクセス向上のための道路整備
- 観光拠点の安全性を高め活性化活動の基盤を支える河川改修
- 観光拠点エリアの活性化活動の基盤を整える港湾整備



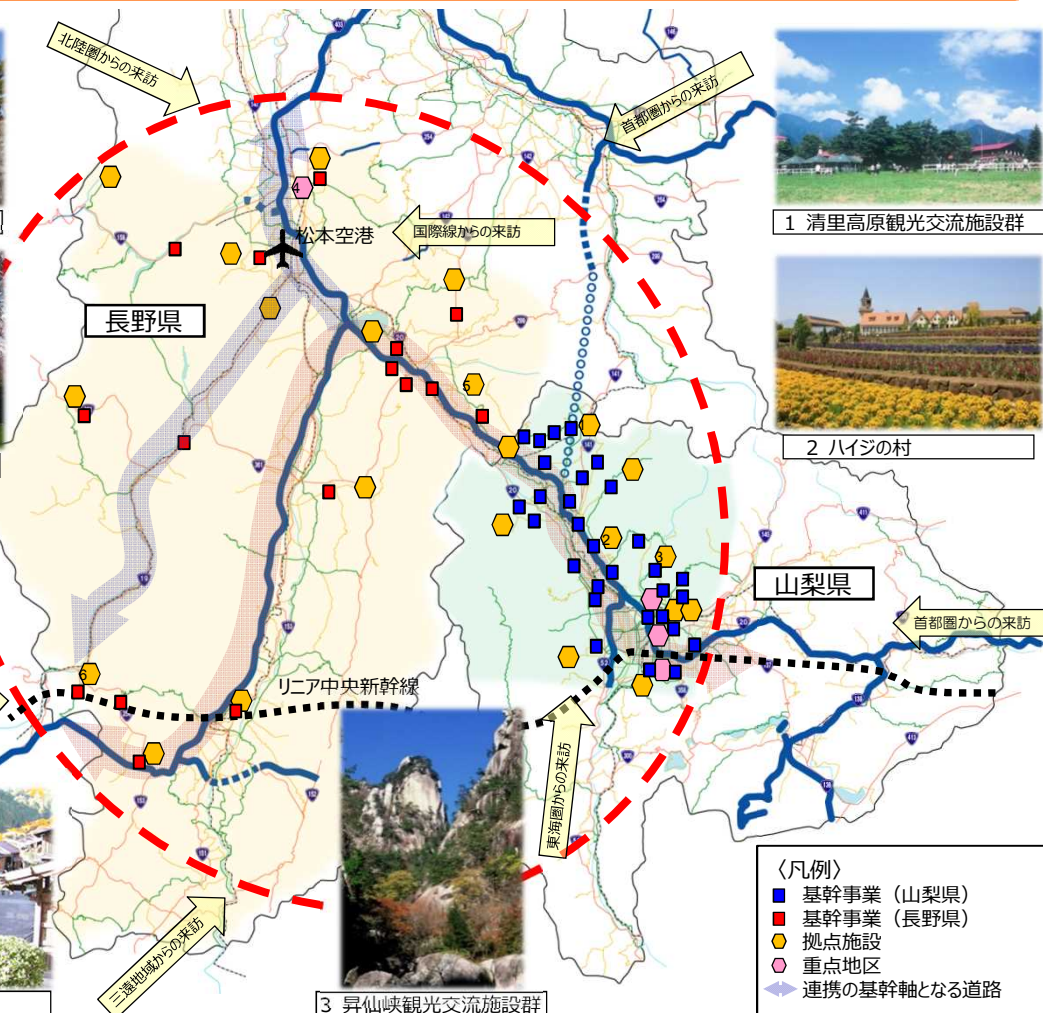
# 甲信地域広域的観光活性化計画

## 計画の概要

八ヶ岳、南アルプスを抱える甲信地域は、自然、歴史、文化や食を始めとした多様な地域資源を有し、観光や体験機会の提供が行われ、山の日制定による山岳観光の注目も加わり、観光ポテンシャルが高まっている。このポテンシャルを活かし、国際観光地の形成、広域周遊観光の推進や都市と農山村との対流の形成を支援する社会資本整備を進め、さらなる観光活性化を図る。



八ヶ岳中央高原



## 計画期間

平成29年度～平成33年度

## 計画の目標

自然、歴史、文化や食をはじめとした多様な地域資源を有する甲信地域の観光活動を支援する社会資本整備を進め、さらなる観光活性化を図る。

## 目標を定量化する主な指標

- 【共通】計画区域における観光客数の増加  
H29：4,824万人 → H33：4,887万人 (1.3%増)
- 【山梨県】山梨県計画区域における観光客数の増加  
H29：1,287万人 → H33：1,304万人 (1.3%増)
- 【長野県】長野県計画区域における観光客数の増加  
H29：3,537万人 → H33：3,583万人 (1.3%増)

## 主な事業

観光地アクセス向上のための道路整備 等

## 福井と岐阜を結ぶ美濃街道、中部縦貫自動車道等を軸とする 福井岐阜交流圏域における広域観光活性化計画

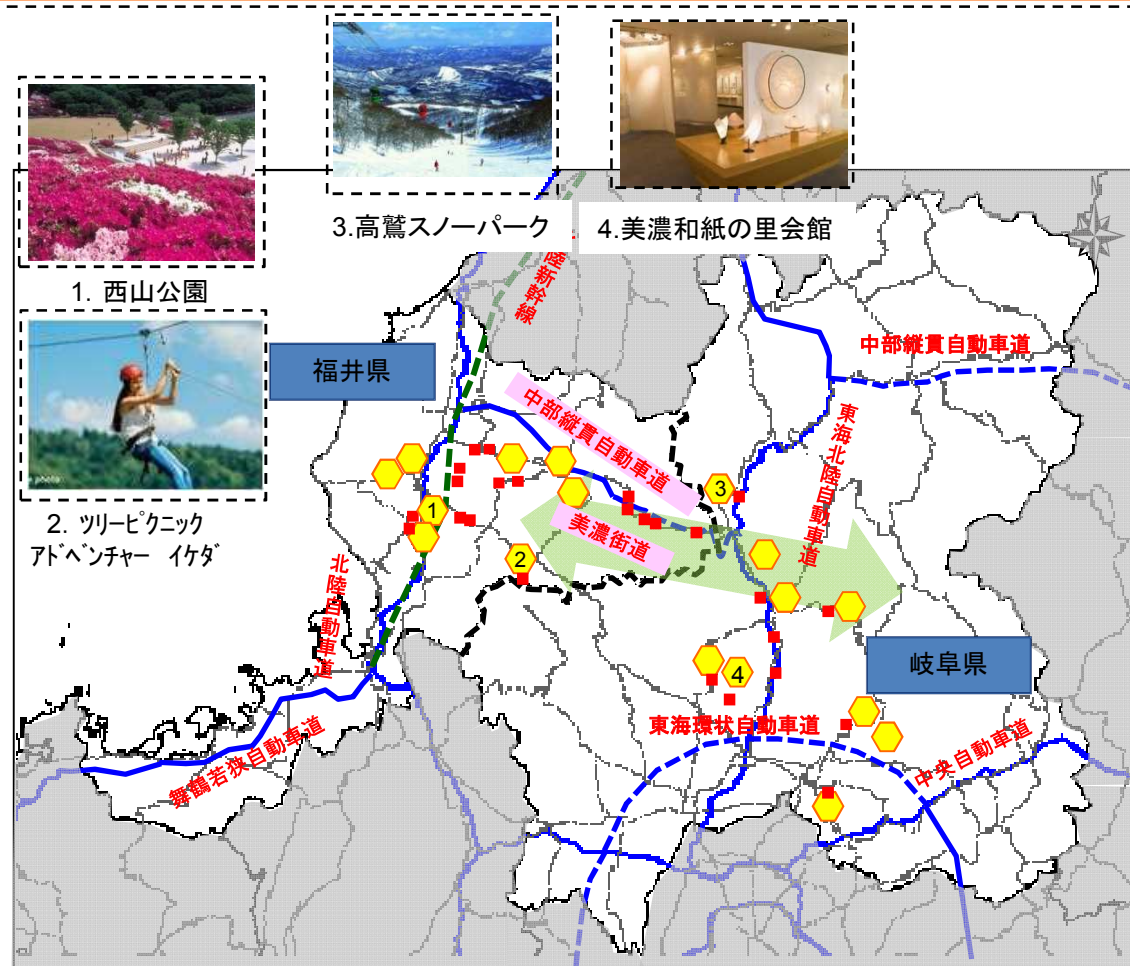
### 計画の概要

福井県と岐阜県を結ぶ旧街道の「美濃街道」および現在整備中の中部縦貫自動車道等の周辺には多くの歴史的遺産を有しているほか、豊かな自然景観を生かした観光施設が多数存在している。中部北陸圏の知名度向上を図る「昇龍道プロジェクト」とあわせて、これらの旧街道等から各観光拠点のアクセス強化を図り、広域的な観光活性化に向けた基盤を整備することにより、岐阜県、福井県における観光入込客数の増加など地域の活性化を図る。



#### 凡 例

- 拠点施設
- 基幹事業



#### 計画期間 平成29年度～平成33年度

##### 1. 計画の目標

旧街道や自動車専用道等で繋がる両県の観光拠点へのアクセス強化により、広域的な観光の活性化を図る。

##### 2. 目標を定量化する主な指標

岐阜・福井両県の観光入込客数増加：  
H27 1,029万人→H33 1,252万人(223万人増)

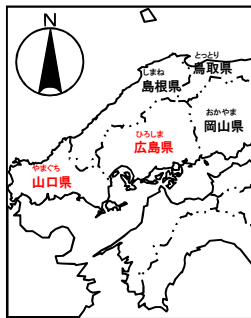
##### 3. 主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備、  
連携して実施する広域観光情報提供

# 広島広域都市圏における広域的な観光活性化計画

## 計画の概要

瀬戸内ブランドの確立による地方創生を実現させるために瀬戸内7県と民間企業が一体となって平成28年に「せとうちDMO」を創設し、地域の観光地経営に取り組んでいる。なかでも本都市圏は、世界遺産である厳島神社と原爆ドームや日本三名橋の一つである錦帯橋といったキラコンテンツを有する世界的にも注目される観光地である。圏域内のマルチエアポート対応の二つの空港や両県を結ぶ高速道路網は観光周遊を促す上で大きな強みであり、空港・高速ICから観光地、さらには観光地間のアクセスを向上させることで、観光周遊を一層促進し、観光客数の増加による広域的な地域活性化を図る。



②寂地峡(岩国市)



④西条酒蔵通り(東広島市)



①錦帯橋(岩国市)



③白壁の町並み(柳井市)



⑥簗の里工房(熊野町)



⑦大久野島(竹原市)



⑧平和記念公園(広島市)



⑨大和ミュージアム(呉市)



⑤厳島神社(廿日市市)

- 拠点施設
- ★ 基幹事業
- ⊙ 重点地区
- ⋯ 観光活性化エリア
- ← 圏外からの来訪ルート

### 計画期間 平成29年度～平成33年度

#### 1 計画の目標

広島広域都市圏※1における入込観光客数

※1: 広島広域都市圏のうち安芸高田市、三原市、世羅町を除く

#### 2 目標を定量化する主な指標

広島広域都市圏※1における入込観光客数を11%増加させる。33,479千人(H26) ⇒ 37,261千人(H33末)

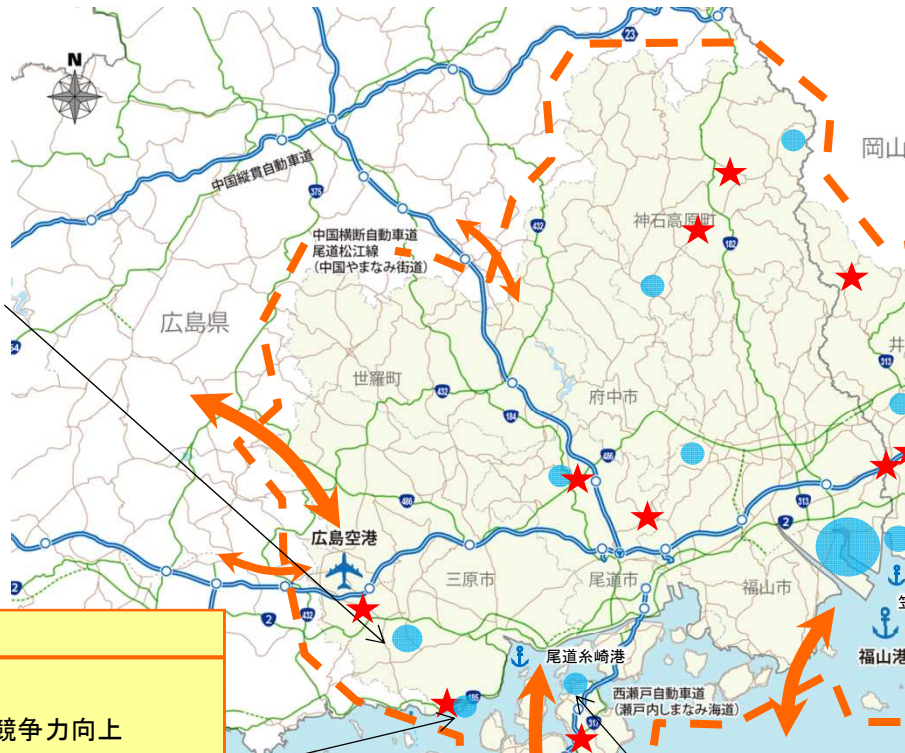
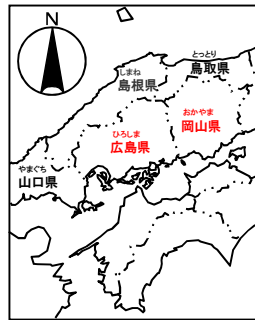
#### 3 主な事業

拠点施設へのアクセス時間を短縮させ、周遊効率性を高める道路事業

# 備後圏域連携中枢都市圏における広域的な産業物流活性化計画

## 計画の概要

本都市圏は、空の玄関口である広島空港のほか、国の重要港湾である福山港・尾道糸崎港等の国際物流拠点を有し、瀬戸内海地域における中核的な工業拠点として発展してきた。また、平成26年度の中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により、高速道路ネットワークが確立され、圏域の経済活動は更なる発展が期待される。これら圏域の強みを活かしながら、広域的な物流結節点と産業集積地及び産業集積地相互のアクセス性を高め物流の効率化に資する基盤整備を推進することで、産業活動の競争力を向上させる。



- 計画期間 平成29年度～平成33年度**
- 1 計画の目標**  
備後圏域連携中枢都市圏の産業活動の競争力向上
  - 2 目標を定量化する主な指標**  
備後圏域連携中枢都市圏における製造品出荷額を基準値より増加させる。平成33年度末 32,600億円(基準値)
  - 3 主な事業**  
広域的な物流結節点と産業集積地及び産業集積地相互のアクセス性を高める道路整備

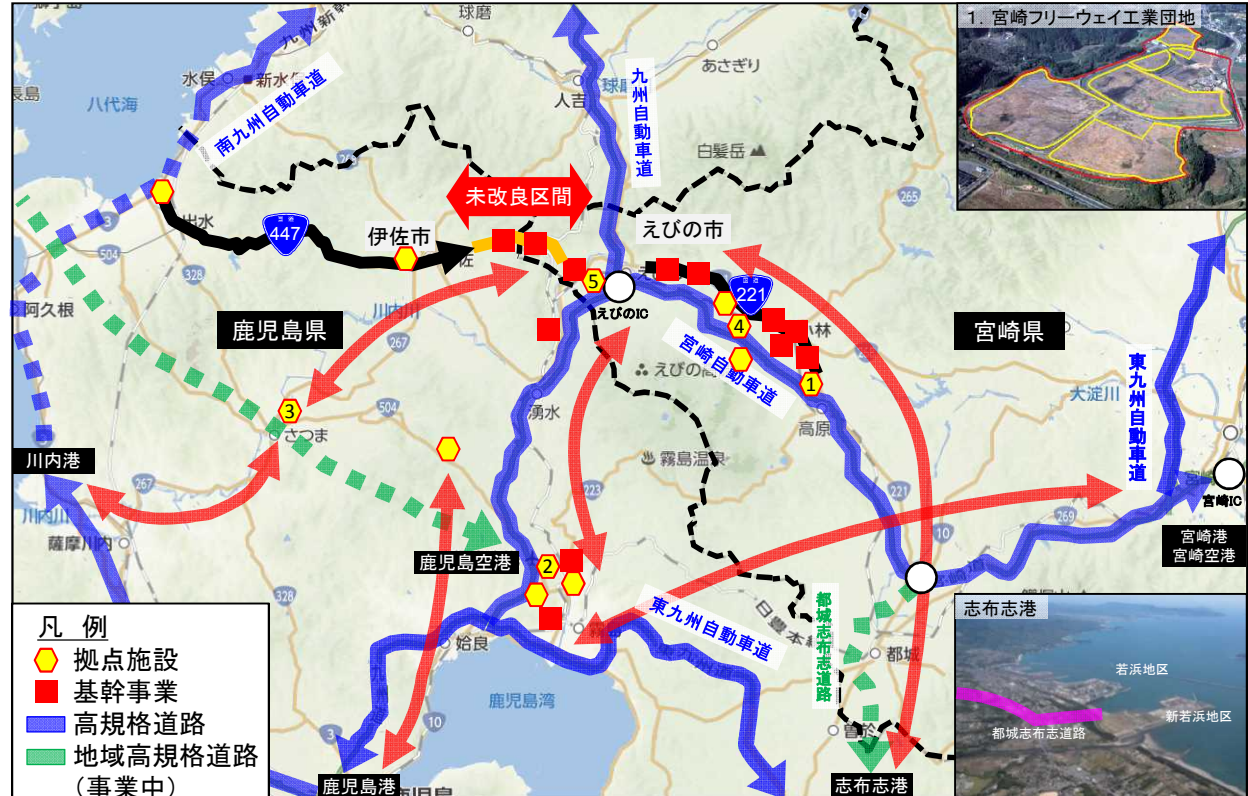
★ 基幹事業     
 ● 拠点施設(産業集積地)     
    備後圏域     
 ⇄ 物流ルート

# 南九州地域における産業・物流活性化計画

## 計画の概要

本地域(西諸県・北薩始良地域)においては、宮崎フリーウェイ工業団地、木材原木市場、鹿児島臨空団地等の南九州の物流拠点施設を有しており、周辺高速道路IC利用の陸上ルート、志布志港を利用する海上ルート等を活用し、海外への木材等の輸出並びに農畜産物の輸入等、1次産業を中心とした経済発展に大きく寄与している。このポテンシャルを生かすため、本地域における拠点施設と広域的な物流結節点(港湾・高速道路IC)を結ぶ道路整備等を実施することで産業・物流活動の支援を進め、物流の信頼性・効率性を高め、さらなる産業活性化を図る。

### 位置図



計画期間 平成29年度～平成33年度

### 1. 計画の目標

計画地域の製造品出荷額の増加

### 2. 目標を定量化する主な指標

計画地域の製造品出荷額の増加

H26: 5,659億円→H33: 約5,907億円(約248億円増額)

### 3. 主な事業

産業拠点へのアクセス向上のための道路整備

2. 鹿児島臨空団地



3. 倉内工業団地



4. 小林林産物流通センター



5. えびのインター工業団地

